



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日  
東

上場会社名 武蔵野興業株式会社 上場取引所  
 コード番号 9635 URL <https://www.musashino-k.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 義勝  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 市川 幹雄 (TEL) 03-3352-1439  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	317	△2.8	8	△74.2	0	△95.1	△5	—
2022年3月期第1四半期	326	25.3	34	20.5	18	△50.9	6	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △5百万円(—%) 2022年3月期第1四半期 6百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△5.47	—
2022年3月期第1四半期	5.95	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	5,953	3,529	59.3	3,373.47
2022年3月期	5,989	3,535	59.0	3,378.75

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 3,529百万円 2022年3月期 3,535百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,300	0.7	60	△24.0	40	△36.5	30	40.0	28.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	1,050,000株	2022年3月期	1,050,000株
2023年3月期1Q	3,619株	2022年3月期	3,599株
2023年3月期1Q	1,046,396株	2022年3月期1Q	1,046,429株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあつたての注意事項については、添付資料のP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想など将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響に加え、ウクライナ情勢の長期化や円安等を背景とする物価上昇の家計への影響もあり、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き新型コロナウイルス感染症の各種拡大防止対策を講じながら、政府・東京都の指導に沿った営業活動を行ってまいりました。その結果、全体として売上高は3億1千7百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は8百万円（前年同期比74.2%減）、経常利益は0百万円（前年同期比95.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は5百万円（前年同期は6百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。当第1四半期連結累計期間のセグメントごとの業績の状況は以下の通りであります。

#### (映画事業部門)

映画興行事業におきましては、「武蔵野館」では、『愛なのに』『ひまわり』、また「シネマカリテ」では、『ハッチングー孵化ー』『劇場版 おいしい給食 卒業』等を上映いたしました。長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により集客数は伸び悩み、全体の売上高は予想を下回る結果となりました。また、当社が主催した新宿東口映画祭は、青春をテーマに邦画・洋画問わず厳選された作品を上映した結果、前年と比べ入場者数が増加しました。

映画配給関連事業におきましては、当社の配給作品「花椒の味」は、2021年公開後も全国各地で息長く上映されたほか、一部作品はオンライン配信プラットフォームで映像提供を行いました。

以上の結果、部門全体の売上高は8千7百万円（前年同期比11.2%増）、セグメント損失は1千9百万円（前年同期は1千9百万円のセグメント損失）となりました。

#### (不動産事業部門)

賃貸部門におきましては、飲食テナントの顧客の戻りが予想よりも弱く、また新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然として続くなか、テナント収入の減少もあり、当四半期におきましては前年同期を若干下回る収益となりました。販売部門におきましては、引き続き業界のネットワークを通じ市況の情報収集を行うも、具体的な営業活動の成果を得るに至りませんでした。その結果、部門全体の売上高は1億3千6百万円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益は7千6百万円（前年同期比11.0%減）となりました。

#### (自動車教習事業部門)

前年は、新型コロナウイルス感染症拡大で自動車運転免許の取得を見合わせていた学生を中心とする免許取得需要に売上高は大幅に増加しましたが、今期は平常に戻ったことで部門全体の売上高は9千万円（前年同期比11.4%減）、セグメント利益は2千1百万円（前年同期比36.9%減）となりました。

#### (商事事業部門)

当該事業部門の軸である東京都目黒区において経営委託している飲食店につきましては、営業成績は徐々に回復の兆しが見えるものの、新型コロナウイルス感染症の影響を完全に払しょくするまでには至らず、部門全体の売上高は1百万円、（前年同期比7.6%増）セグメント利益は1百万円（前年同期比7.6%増）となりました。

#### (その他)

主として自販機手数料であります。部門全体の売上高は1百万円（前年同期比6.5%増）、セグメント利益は1百万円（前年同期は0百万円のセグメント利益）となりました。

※ スポーツ・レジャー事業部門は営業中止中であります。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、賃貸ビルの改修工事による固定資産の増加があったものの、未払債務及び有利子負債の返済による現金及び預金の減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ3千5百万円減の59億5千3百万円となりました。

### (負債)

負債合計は、未払債務の減少や有利子負債の返済による減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ3千万円減の24億2千3百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が減少し、前連結会計年度末に比べ5百万円減の35億2千9百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期連結業績予想につきましては、現時点においては、2022年5月12日発表の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	759,248	742,245
売掛金	43,325	28,553
棚卸資産	2,123	4,770
その他	54,914	53,514
貸倒引当金	△25	△18
流動資産合計	859,585	829,064
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	506,309	512,362
機械装置及び運搬具（純額）	6,603	5,766
工具、器具及び備品（純額）	18,840	18,587
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産（純額）	7,243	6,813
有形固定資産合計	4,443,165	4,447,696
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	11,186	10,625
無形固定資産合計	78,446	77,885
投資その他の資産		
投資有価証券	460,953	453,474
繰延税金資産	21,920	22,216
敷金及び保証金	88,646	88,646
その他	40,734	38,779
貸倒引当金	△3,843	△3,843
投資その他の資産合計	608,411	599,273
固定資産合計	5,130,022	5,124,855
資産合計	5,989,608	5,953,919

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,960	35,719
短期借入金	57,660	57,660
リース債務	7,155	4,995
未払法人税等	16,525	9,688
賞与引当金	8,775	20,011
その他	182,591	189,165
流動負債合計	323,669	317,240
固定負債		
長期借入金	340,636	326,221
リース債務	5,811	5,822
退職給付に係る負債	64,531	60,377
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
長期預り敷金	619,039	613,839
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	9,291	9,381
固定負債合計	2,130,412	2,106,744
負債合計	2,454,081	2,423,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	85,769	80,041
自己株式	△8,667	△8,711
株主資本合計	1,081,602	1,075,829
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,840	2,020
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,453,924	2,454,104
純資産合計	3,535,526	3,529,934
負債純資産合計	5,989,608	5,953,919

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	326,413	317,218
売上原価	138,474	150,752
売上総利益	187,939	166,466
販売費及び一般管理費	153,803	157,675
営業利益	34,136	8,791
営業外収益		
受取利息及び配当金	17	737
その他	22	210
営業外収益合計	39	947
営業外費用		
支払利息	686	548
持分法による投資損失	15,338	7,738
その他	95	575
営業外費用合計	16,120	8,862
経常利益	18,055	877
特別利益		
新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等	8,190	3,745
特別利益合計	8,190	3,745
特別損失		
臨時休業による損失	6,954	-
環境対策費	-	2,555
特別損失合計	6,954	2,555
税金等調整前四半期純利益	19,290	2,066
法人税、住民税及び事業税	14,719	8,090
法人税等調整額	△1,656	△295
法人税等合計	13,063	7,794
四半期純利益又は四半期純損失(△)	6,227	△5,727
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	6,227	△5,727

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	6,227	△5,727
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△100	180
その他の包括利益合計	△100	180
四半期包括利益	6,126	△5,547
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,126	△5,547

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、投資信託財産が金融商品である投資信託については、市場における取引価格が存在せず、かつ、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないため、基準価額を時価としております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	78,651	9,884	102,089	1,662	192,288	1,018	193,306
その他の収益	—	133,107	—	—	133,107	—	133,107
外部顧客への売上高	78,651	142,991	102,089	1,662	325,395	1,018	326,413
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	900	—	—	900	—	900
計	78,651	143,891	102,089	1,662	326,295	1,018	327,313
セグメント利益又は損失(△)	△19,132	86,157	33,655	1,662	102,343	961	103,305

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	102,343
「その他」の区分の利益	961
セグメント間取引消去	1,443
全社費用(注)	△70,612
四半期連結損益計算書の営業利益	34,136

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	87,498	9,615	90,438	1,789	189,340	1,084	190,425
その他の収益	—	126,792	—	—	126,792	—	126,792
外部顧客への売上高	87,498	136,408	90,438	1,789	316,133	1,084	317,218
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	900	—	—	900	—	900
計	87,498	137,308	90,438	1,789	317,033	1,084	318,118
セグメント利益又は損失(△)	△19,526	76,691	21,238	1,789	80,192	1,007	81,199

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	80,192
「その他」の区分の利益	1,007
セグメント間取引消去	3,698
全社費用(注)	△76,106
四半期連結損益計算書の営業利益	8,791

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。4. 報告セグメントごとの資産に関する情報  
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。